

ITO、BPO重視の中国を見る

第2回国際アウトソーシング会議訪中団報告

中国江蘇省政府、中国国際貿易促進委員会が共同主催する「第2回中国国際サービス・アウトソーシング合作会議」が6月23日、24日に南京市国際博覧センターで開催された。当協会は中国国際貿易促進委員会の要請を受け訪中視察団を派遣した。本団は会議参加のほか、國務院が今年2月にサービス・アウトソーシングモデル20都市(注)に指定した南京、蘇州、無錫の日系アウトソーシング企業を参観し、開発区管理委員会の説明を聞いた。

中国は今世紀に入って、産業構造のグレードアップ、発展方式の転換を重要な政策とし、ハイテク産業、サービス業、ITO(ITアウトソーシング)、BPO(ビジネスプロセスアウトソーシング)等の発展に注力している。

今回の会議は昨年9月に続く第2回目であり、カナ

ダハイテク協会、英国アウトソーシング協会、アメリカ国際アウトソーシングプロフェッショナル協会、韓国ソフトウェア協会などが協賛した。23日午前の全体会議ではこれらの国の代表が発言したほか、本団に参加したスウイングバイ2020(株)の海野恵一社長が「国際アウトソーシングを通じて日本企業の国際化を推進しよう」と題するスピーチを行った。全体会議には全国各地からの代表団と海外からの参加者を含め約600人が出席した。

全体会議における各国の発言をみると、ITOはかなり進んでいるが、BPOについては今後の課題であり、興味は示しているが実績はまだ少ないようであった。

会議では同時に展示会やビジネスマッチングも実施され、アニメ、ソフトウェア、応用技術、医薬開発の4分野での展示や商談が行

われた。

主催者側の紹介によると、江蘇省の2008年国際サービスアウトソーシングのオフショア実行金額は9.4億ドル(前年比261%増)で、全国第1位であった。本団が参観した蘇州工業園区及び無錫園区においても「国際科技园」「創新創意産業園」といったアウトソーシング企業のための入居施設が完備され、実際に利用されていた。同時に入居企業には地元政府からさまざまな優遇措置が採られていた。(片寄浩紀・当協会専務理事)

注：今年2月に國務院は北京、天津、上海、重慶、大連、深圳、広州、武漢、ハルビン、成都、南京、西安、済南、杭州、合肥、南昌、長沙、大慶、蘇州、無錫の20都市を中国のサービスアウトソーシングモデル都市に指定した。これらの都市では今後一連の奨励措置や支援策が実施される。



大会フォーラムで発言する海野氏

中国人の多様な価値観

日本企業グローバル化に生かせ

中国貿促主催の南京でのイベントに参加した。23日に南京でアウトソーシングの大会があり、そこで日本代表としてスピーチをした。日本企業のグローバル化のために中国人の多文化、多民族、多言語、多宗教の多様な価値観についてBPOを通じて、我々が勉強する必要があることを皆さんに訴え、その協力を仰いだ。そうした考えを持っている海外からの代表が3人いた。1人はアメリカから、もう1人はシンガポールか

ら、3人目は香港から来た人だった。中国のBPOはまだ、ひよこである。この1年、急速に変化してきていることを鑑みると、これからの1年もこの中国は大きく変化するだろう。彼らの新しいものを吸収する姿勢はどん欲である。我々は戦後、約65年経った。年齢で言えば、還暦を超えてしまっている。彼らの若さを学ぶ必要がある。今回の訪中ではそれを目の当たりに見ることができた。(海野恵一・スウイングバイ2020(株)社長)